



社会福祉法人

東京聖新会

介護老人保健施設 ハートフル田無
特別養護老人ホーム フローラ田無

令和2年度法人事業報告

ごあいさつ

令和2年度は、新型コロナウイルスによる幕開けから始まり、令和3年になった今現在でも収束しない様相となっています。その猛威は未だに留まるところを知らず、地球生命体は大きな打撃を受けました。この犠牲はあまりに大きく、私たちの思考の根底を揺るがすほどの大きな経験となりました。しかし、同時に私たちはこの災禍から大きな経験と学びを獲得し、それまでの思考の在り方を大きく刷新することとなりました。

東京聖新会では令和2年2月19日にはいち早く感染症対策を実施し、より安全安心な事業継続のためのBCP再構築と、その改善をくりかえしました。全施設を挙げて「PCAサイクル」意識しながらの改善を実践いたしました。その成果は、事業継続に最適なBCP策定を根幹としつつ、以下の感染症対策へ繋がりました。

- ・各部署部門別の出入り口の設置。
- ・施設内ゾーニングの早期開始(令和3年3月29日)。
- ・予防薬としてカモスタット6000錠購入し、各部署へ薬理説明と内服についての承諾書のもとに内服指導開始。
- ・ゾーニング方法(令和3年4月2日)の改訂。
- ・デイケアスペースとリハビリスペースの交換配置。
- ・隔離スペースの確保(陰圧室の4床設置)と隔離システムの構築。
- ・遠隔見守りシステムの増設。
- ・マスク、予防衣、手袋、フェイスシールド等PPE類の確保。PPEシステムの検討。
- ・抗体検査、抗原検査、PCR検査の実施令和2年10月より毎月実施。令和3年1月より毎週実施。抗体検査についてはサービス利用開始時に実施、また体調変化時に抗原検査、PCR検査を実施。令和3年6月現在、感染者はゼロ。

その他感染症対策のBCPをもとに各種様々な対策を講じ、感染者ゼロを維持してきています。(報告書の一部をのちに掲載)

東京聖新会ではもとより、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて、「安全で、使いやすい、より質の高い」「地域共生社会」の構築を目指していましたが、その計画途上における、スピード感ある「柔軟で的確な対応」が、今回の新型コロナウイルスへの予防対策に活かされたと実感しています。

令和2年度についてはこのコロナ禍を一致団結し、地域復興に尽くすことを目指しました。以下の重点目標について各部署よりご報告致します。

I. パンデミックに負けない人材の育成「人を育てる」

東京聖新会が望む職員像・・・

職業倫理をもち、組織の向かう方向を(理念)を理解し、共に目指せる職員。

自分たちで作りあげた「クレド」を守れる職員。

困難に立ち向かい、考え、諦めない職員。

「人を育てる」ことは、提供するサービスの質を上げるだけでなく、獲得した高い専門性は、地域や周りから信頼される職員の形成に役立ちます。職員自身の自信にも繋がり、自らの職業に誇りをもてる東京聖新会の職員となることを可能とします。これまでも実践してきましたが、今年度については職員個別のアセスメントを行い、そのアセスメントに沿った研修計画を職員自らが策定します。

II. 社会の変化に負けない「東京聖新会にかかわる全ての人」の環境改善を進める

介護サービスを提供されるサービス利用者(高齢者)の生活場面の環境改善はもとより、働く職員たちの「働く環境」を改善するとともに、地域に住まう東京聖新会に関わる全てのひとに対しての環境改善を図ります。

III. 将来を見据えた安定的な事業運営

東京聖新会も地域の皆さまに支えられ、20年が経ちました。この間、ナースコールの再設置を始めとする空調等大規模修繕を行ってまいりましたが、今後の老朽化を鑑み、さらなる大規模改修の検討が必要となってきます。

これからの運営を継続するうえで必要と思われる大規模改修計画を明確にします。



<中長期目標と令和2年度報告と成果>

地域に住まうすべての市民に「安全で、使いやすく、より質の高い介護サービス」を提供し続けます。

以下、三つの目標項目とそれぞれの計画と成果を報告します。各部署の詳細については部門別の報告を参照のこと。

重点項目Ⅰ

<目標>

組織としての「将来を見据えたサービス提供の在り方」を検討し続ける
地域のニーズを探り、組織として行うべき必要な地域へのサービスの提供を行う。

- ・誰でも立ち寄れる「おにぎり食堂」の週一回開設(2か年)
- ・立ち寄り「お風呂」の週2回開設(2か年)

<単年度計画>

- ・高齢者入浴サービスの実施
- ・誰でも立ち寄れる「おにぎり食堂」の試験的開設
- ・立ち寄り「お風呂」の試験的開設

<成果>

高齢者入浴サービスは実施できたが、その他はコロナ禍により、開催不可。
感染症予防対策(事業継続のための)BCP策定。

重点項目Ⅱ

<目標>

人材の育成「人を育て」地域を活性化する。
年2回個別面談と自己アセスメントを行い、「個人研修計画」を職員自ら策定する。
全体の研修を行いつつ、階層による研修も実施する。
また、自主勉強会をバックアップし、学会研究発表者を指導し支える(毎年3事例として5か年で15事例報告する)。AI、IOTロボット等未来型テクノロジーについての導入方法からの「学び」のプロセスを形式知に落とす。
進学希望職員を支え方検討会発足(2か年計画)。
将来的に、法人内での定期的な事例報告会を開催する。

<単年度計画>

- ・「専門性」の向上を図る各種の全員参加研修,Off-JT
尊厳について、虐待防止、事故防止、感染症予防(年2回)、災害時対応、スキルアップ、記録と観察力、褥瘡予防、東京聖新会の理念それぞれ3回ずつ実施し、法人全員が参加できるように企画する。

- ・「組織」チームの一員としての役割を果たせる研修,Off-JT(入職一年未満、2年以上、5年以上、指導的立場階層別研修の施設内開催各一回と外部研修5名参加)
- ・地域のニーズをリサーチし、提案できるワールドカフェ2回開催
- ・事例を5つの学会でスタッフ3名以上が事例報告する。
- ・進学希望者支援を検討。
- ・事例報告会を開催。

<成果>

- ・計画された各種研修は、対面では行われなかったものの、Zoom等を駆使し、人材育成研修・勉強会を開催した。感染状況を見つつ、フローラ田無、地域包括支援センター共催による市民向けの研修は場所をA&Aセレス館をお借りし、対面実施とした。
- ・感染症についての情報収集と、安全への配慮を実践を通して学び、施設BCP構築へと活かすことができた。
- ・Zoomが開催された学会は全て参加し、2020欧州老年医学会では最優秀デジタルポスター賞を受賞した。

重点項目Ⅲ

<目標>

東京聖新会にかかわる全ての人の環境改善

計画的な介護サービス提供環境と職場環境の改善

- ・床、壁、水回り定期点検修繕(施設別フロア別3か年)
- ・多床室のプライバシー配慮(居室面積によって対応が異なるため事業所別に実施)
- ・全トイレにウオッシュレット完備(施設別、ユニット別3か年)
- ・車両の入れ替え(老健5か年、特養3か年)

<単年度計画>

- ・フローラ田無居宅支援事業所の事務所の移動と改修
- ・ハートフル田無訪問看護ステーションの移動と改修
- ・施設ハード部分の定期点検実施
- ・感染症対策による陰圧室の設置(フローラ2室、ハートフル2室)
- ・ネット環境整備、見守りシステム10台設置。
- ・緊急時(感染症等発生時BCP再構築と実践)
- ・ウオッシュレット老健4か所設置。
- ・車両は修理修繕にて対応。
- ・コロナ禍により未実施項目あり。

重点項目Ⅲ

<目標>

地域による在宅生活を支える包括的なシステムづくり

併設特養と老健施設の特色を踏まえた上で、在宅復帰を目指すハートフル田無の強みを東京聖新会全体で共有を進め、包括的に地域を支える

<単年度計画>

- ・地域包括のネットワークを強化するため、これまで関わりの少なかった事業所と協働してイベントを年間1回開催する。
- ・訪問看護、訪問理学療法等の専門知識を共有できる、少人数による
- ・IOTテクノロジー機器の導入をさらに進め、地域包括ケアシステムとの連携を図る。
- ・ハートフル田無では、在宅復帰率20%を目指し、2月に1名、在宅復帰ができるように支援する。
- ・フローラ田無では空ベッドやショート空き情報をハートフル・包括・居宅へ随時提供することで空所補填率80%、ショート稼働率100%を目指す。
- ・週に1回ハートフルとフローラの相談員と連携し、空床・利用状況を確認しあい、地域のニーズに応える。実施。

<成果>

- ・専門職による少人数による勉強会10回以上開催。
- ・ハートフル田無では、コロナ禍にも関わらず、在宅復帰率13パーセントとなった。
- ・フローラ田無では空ベッドやショート空き情報をハートフル・包括・居宅へ随時提供することで空所補填率90%、ショート稼働率100%。全体で99.8%のベッド利用率となった。

重点項目IV

<目標>

将来を見据えた安定的な事業運営

フローラ田無

フローラ田無居宅支援事業所

向台地域包括支援センター

ハートフル田無、

ハートフル田無訪問リハビリステーション

ハートフル田無訪問看護ステーション

ハートフル田無通所リハビリ

<単年度計画>

- ・屋上防水工事(補助金申請) 状況を点検し2020年度より準備期間を設ける。

<成果>

コロナ禍により未実施もあるが、各事業所にて具体的な目標と成果については参照されたい。

重点項目V

<目標>

地域社会に向けての貢献と運営の透明化

<単年度計画>

- ・第三者委員会の存在の明確化と内容の透明化。
- ・災害時のBCP、感染症発生時のBCPは暫時改定しているが、それぞれのBCPによって対応がなされた場合、HPでの迅速な情報公開を行う。

<成果>

コロナ禍により未実施箇所はあるが、BCPの再構築が行われ、感染症対策について新たな展開をむかえ、様々な取り組みによって感染者ゼロを達成している。行政への報告、その他HP等にての情報公開を進めた。

※ 添付 PCR 検査報告文書

社会福祉法人東京聖新会に関わる全てのみなさまへ
社会福祉法人東京聖新会

令和3年3月31日

ハートフル田無 増山 茂
フローラ田無 尾林 和子

唾液採取による2021年月期新型コロナウイルスPCR検査実行報告

オリンピックを控え、緊急事態宣言は継続され、ようやくワクチン接種も緒に着いた今日この頃です。しかし、変異株種は拡散し、姿の見えないウイルスに対しての不安は高まるばかりで、なお一

層の感染症対策を実践していかなければならない状況です。4月に入り、行政からは週一度のPCR検査の依頼がありました。私たちはこれまでと特に変わることなく粛々と検査その他を実施し、予防対策に努めています。東京聖新会が導入してきた検査キットはこの度、東京都からも指定を受けたキットであり、変異種への検査も行えます。とても頼りがいのある検査キットを東京聖新会では導入してきたというになります。今般、東京聖新会を守る全ての人を対象に第12回-CoV-2 PCR検査を実施いたしました。以下の通り、ご報告いたします。

第10回 SARS-CoV-2 PCR 検査

日時： 2021年5月19日(水曜日キット回収)

対象者： 146名の新会(とその関連)職員(全員無症状)。

検査機関：新型コロナウイルス検査センター(市川)

方法：唾液によるRT-PCR(タカラバイオ社製 SARS-CoV-2 Direct Detection RT-qPCR Kit)

結果：新型コロナウイルス SARS-CoV-2 PCR 検査陽性者はゼロ名でした。

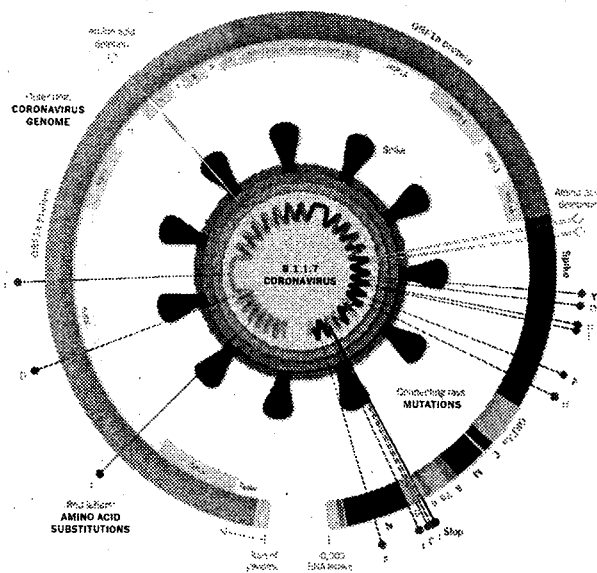
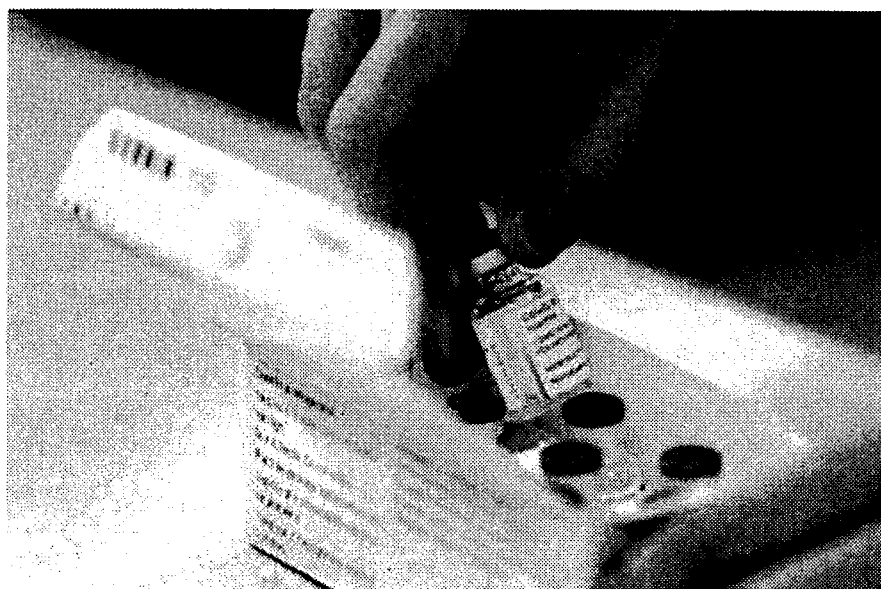
大規模検査は毎月、訪問分野スタッフについては、2021年1月より毎週20名のPCR検査を実施しています。施設内での体調変調者についても、入所者を含めたスタッフとその家族に体調不良があった場合は、即座に別途遺伝子検査・抗原検査+インフルエンザ検査を行い、対応しています。

全世界の感染者が一億人を遥かに超え、日本も非常事態宣言は解除なされていません。ワクチンの供給も始まりましたが、高齢者をお預かりする施設は日々、戦々恐々としてい

ます。一刻も早いワクチン全員接種に向けて、地域で一致団結し、このコロナ禍を潜り抜けていきます。

第6回	SARS-CoV-2 PCR 検査	2021年03月10日(水)	結果：150名全員陰性。
第5回	SARS-CoV-2 PCR 検査	2021年02月03日(水)	結果：170名全員陰性。
第4回	SARS-CoV-2 PCR 検査	2021年01月06日(水)	結果：150名全員陰性。
第3回	SARS-CoV-2 PCR 検査	2020年12月08日(火)	結果：170名全員陰性。
第2回	SARS-CoV-2 PCR 検査	2020年11月12,19,26日(火)	結果：150名全員陰性。
第1回	SARS-CoV-2 PCR 検査	2020年10月29日(火)	結果：150名全員陰性。

(訪問分野毎週20名実施、全検査は陰性)



以下、各部門各事業所にて報告をいたします。ご高覧ください。